

小学校 外国語活動 部会

部会長名 勾金小学校 校長 本田 義隆
実践者名 糸田小学校 教諭 野村 謙二
実践者名 伊方小学校 教諭 茅島 陽子

1 研究主題

外国語を使って、コミュニケーションの楽しさを味わう外国語活動の在り方
～ 言語活動の充実を図った学習展開と評価の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められている現代社会においては、異文化の人々と共生していくための手段として、外国語に慣れ親しんでいく必要がある。しかし、多くの子どもが、母国語以外の言語に初めてふれるという実態から、会話表現、文法などのスキルを身に付けさせる学習に偏重し、負担感を持たせたり、興味・関心を失うような活動内容になったりすることは、英語嫌いをつくることになりかねない。

そこで、小学校外国語活動においては、子どもの日常生活に身近で簡単な英語を聞いたり、話したりする活動を中心に行っていく。そして、体験的にコミュニケーションの楽しさを味わわせ、その楽しさの中に外国語に慣れ親しむような活動内容を工夫していくことが求められている。

(2) 外国語活動の目標から

学習指導要領における外国語活動の目標は、以下の通りである。

外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

外国語活動の究極的な目標として「コミュニケーション能力の素地を養う」ことが挙げられている。ここでいう「コミュニケーション能力の素地」とは、

【言語や文化についての体験的な理解】

外国語と日本語との違っているところや似ているところを知り、言葉の面白さや豊かさに気づく。

日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づく。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

自分から進んで相手と関わり、コミュニケーションの楽しさを味わう。

自分の考えを基に、積極的に外国語を聞いたり、話したりしようとする。

外国語を使ってコミュニケーションを図る大切さを実感する。

【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】

相手の話す外国語から伝えようとしていることを理解しようとする。

自分の気持ちや考えを慣れ親しんだ外国語表現に強勢やリズムをつけて相手に伝えようとする。

の3点である。ここでは、外国語の多くの表現を覚えたり、細かい文構造などに関する抽象的な概念について理解できるようにすることは求められてはいない。むしろ「外国語を言いたい」「外国

語を使って何かをしたい」という意欲や「外国語を使って進んで聞いたり、話したりしようとする」態度を育成していくことに重点が置かれているのである。以上のことから、本研究主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 「外国語を使って、コミュニケーションの楽しさを味わう」とは

「コミュニケーションの楽しさ」を、以下の2点からとらえる。

自分が伝えたいことや自分の気持ちを相手が受け止めてくれることで感じる気持ちよさ

「自分の伝えたいことや気持ちを理解してくれた。うれしいな。楽しいな。」

「私の伝えたいことや気持ちについて、みんなや　　くんが、何かを感じてくれたり、その感じたことを伝えてくれた。もっと伝えてみたいな。」

相手や気持ちや未知の文化、情報を知ることによって感じる気持ちよさ

「私が伝えたことについて、　　くんは、そんなふうにしたんだな。」

「外国語にそんなもがあったなんて初めて知ったな。日本ではどうだろう。」

おもしろいな。」

「外国語を使って、コミュニケーションの楽しさを味わう外国語活動」とは、このような2つの気持ちよさを、外国語活動特有の方法である「外国語を用いた活動」を通して実感することができる学習を展開していくことと考える。

(2) 外国語活動における「言語活動の充実」とは

『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』（平成22年12月 文部科学省）では、言語活動の充実を図る際に、各教科等の特質を踏まえることが大切であるとされている。外国語活動の特質とは、小学校学習指導要領第4章外国語活動の目標に示されているように、「外国語を通じて」言語活動を行うことである。

小学校外国語活動における「言語活動」とは、メッセージのやりとりが含まれた「話す」「聞く」活動を「外国語を通じて」行うこととも言える。そこで、外国語活動における「言語活動の充実」とは、子どもにとって外国語を聞いたり、言ったりする必然性がある活動を学習展開の中に設定することと考える。

具体的には、

人と人の関わりや知的好奇心のある楽しさを持つコミュニケーション活動にするため、自分が伝えたいことを伝える活動や自分や相手のことを互いに伝え合うという目的のある活動を単元及び一単位時間の学習展開の中に位置づける。

* 自分が伝えたいことを伝える活動や自分や相手のことを互いに伝え合うという目的のある活動の例

・インタビュー・ロールプレイ・クイズ・Show and Tell など

また、特にALTとの言語活動の内容としては、以下の2点のいずれかに気付かせるような活動を構想する。

(1) 外国語の音声やリズムなど日本語との違い、言葉の面白さや豊かさ

(2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違い、多様なものの見方や考え方

子どもにとって不慣れな外国語を用いることで、子どもは、相手の表情やジェスチャー、言葉のイントネーション等から、相手の言っていることを一生懸命理解しようとする。また、不慣れな外国語であるから、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感し、自分の思いを伝えるために、知っている外国語を使い、ジェスチャーを付けたり実物を使ったりして、一生懸命に自分の思いを伝えようとする。だが

からこそ、相手の言っていることが理解できたり伝わったりしたときの喜びは大きい。このような活動の積み重ねが、言語を用いたコミュニケーションへの積極的な態度を育成することができると考えられる。しかし、このときに大切なことは、外国語を使った活動が、子どもの興味・関心に合っていること、子どもが聞きたい、言いたい活動になっていることである。

さらに、日本語と外国語の音や言い方の違いや共通性を知り、言葉の面白さや豊かさ等に気付かせたり、言語に対する興味・関心を高めたりするためには、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ必要がある。そのためには、子どもが実際に外国語を聞いたり言ったりする活動を設定しなければならない。

(3)「評価の工夫」とは

意欲や態度の育成に重点を置いている外国語活動における「評価の工夫」とは、評価規準の設定と児童の活動の見取り方、児童の自己評価や児童同士の相互評価の在り方について考えることとする。

具体的には、児童の具体的な姿をとらえ、どう指導すればよいかを明確にするため、単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定し、行動観察用のチェックリスト(指導者用)、振り返りカード(児童用)を作成する。

4 研究の目標

外国語を使って、コミュニケーションの楽しさを味わう児童を育成するために、外国語活動における言語活動の充実を図った学習展開と評価方法の在り方について究明する。

5 研究仮説

外国語活動の学習指導において、言語活動を充実させ、評価を工夫すれば、児童は外国語を使ってコミュニケーションの楽しさを味わうことができるであろう。

[仮説実証のための着眼点]

人と人の関わりや知的好奇心のある楽しさを持つコミュニケーション活動にするため、自分が伝えたいことを伝える活動や自分や相手のことを互いに伝え合うという目的のある活動を単元及び一単位時間の学習展開の中に位置づける。

* 自分が伝えたいことを伝える活動や自分や相手のことを互いに伝え合うという目的のある活動の例

・インタビュー・ロールプレイ・クイズ・Show and Tell など

児童の具体的な姿をとらえ、どう指導すればよいかを明確にするため、単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定し、行動観察用のチェックリスト(指導者用)、振り返りカード(児童用)を作成する。

6 授業の計画

【実践1】5年生 Lesson 6 外来語を知ろう

糸田町立糸田小学校 教諭 野村 謙二
JTE 中村 泰子

【実践2】6年生 Lesson 5 道案内をしよう

福智町立伊方小学校 教諭 茅島 陽子

7 授業の実際

【実践1】5年生 Lesson 6 外来語を知ろう (総時数 3時間 3 / 3)

(1) 単元の目標

- A コミュニケーションへの関心・意欲・態度
 - ・ 進んで自分の欲しいものを頼んだり相手の欲しい物を尋ねたりしようとする。
- B 外国語への慣れ親しみ
 - ・ "What do you want?" ~, please!"を用いて、欲しいものを尋ねたり頼んだりする。
- C 言語や文化に関する気づき
 - ・ 外来語は、交流のあったさまざまな国から入ってきたこと、英語と発音や強勢が違うものがあることに気づく。

(2) 本時主眼

進んで自分の欲しいものを頼んだり相手の欲しいものを尋ねたりしようとする。
 "What do you want?" ~, please."等の表現を使って、自分たちの話している外来語との発音の違いに気をつけて、自分の欲しいものを頼んだり相手の欲しいものを尋ねたりする。

(3) 評価規準

- A コミュニケーションへの関心・意欲・態度
 - ・ 進んで自分の欲しいものを頼むコミュニケーションの楽しさを味わう。
 話し方 - 伝えたい部分は、はっきりした声で話す。
 聞き方 - うなづいたり言葉を返したりして、反応しながら聞く。
 関わり方 - 笑顔でいっしょに活動する。
- B 外国語への慣れ親しみ
 - ・ 外来語との発音の違いに気をつけながら、" ~, please."を用いて、欲しいものを頼む。

(4) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	
	JTEの役割	HRTの役割
1. Greeting 始めの挨拶をする。		
2, 本時の活動を確認する。 Target _____ 自分たちのほしいものをたのんで、オリジナルフルーツパフェを作ろう。 Point _____ ・ 伝えたい部分は、はっきりした声で話す。 ・ 反応しながら聞く。 ・ 笑顔でいっしょに活動する。		今日の学習のめあてを確認させる。 コミュニケーションのポイントを確認させる。
3, Chants-フルーツを言う。 apple, cherry, grape, pineapple, banana, lemon, melon, orange, kiwi, strawberry, watermelon, peach, (準備) フルーツ絵カード	本時で取り扱う単語の発音と外来語との発音の違いに気をつけて発音させる。 ・ What fruit is this? What color is it?	

<p>4, Sing-"What do you want?"を歌う。 言葉を代えて歌う。</p> <p>(観) <u>What do you want?</u> <u>~, please!</u></p> <p>(準備) 歌詞表・フルーツ絵カード 色カード</p>	<p>歌いながら、ほしいものを尋ねたり頼んだりする言葉に慣れさせる。また、外来語との発音の違いに気をつけて歌わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Let's sing a song. • Change the fruit. <p>What do you want?</p> <ul style="list-style-type: none"> • ~, please. • ~ san, what do you want? <p>"a"が母音の前に付く場合、 "an"になることを確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ~, please. • What do you want? • ~ kun, what do you want?
<p>5, Demo-"Fruit parfait, please."を見る。</p> <p>(観) (), please. Here you are.</p> <p>(準備) 役割カード・フルーツ絵カード フルーツパフェセット</p>	<p>場面の中で、ほしいものを尋ねたり頼んだりするときに必要な言葉を確認させ、次の学習活動への意欲を高めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Look at us. • Listen to us carefully. <p>I'm a customer.</p> <p>I'm a shopkeeper.</p> <ul style="list-style-type: none"> • A Fruits parfait, please. • What do you want ? • You can select 5 fruits. <ul style="list-style-type: none"> • ~, ~, ~, ~ and ~, please. • Thank you. • Here you are. <p>What do you want ?</p>
<p>6, Activity-オリジナルフルーツパフェを作る。 班ごとにオーダー票に果物とたのむ人の名前と順番を書き込む。</p> <p>班ごとに、客と店員になって練習する。</p> <p>客になって店員に果物をたのみ、フルーツパフェをつくる。</p> <p>(観) <u>What do you want ?</u> <u>~, please !</u></p> <p>(準備) オーダー票・フルーツ絵カード フルーツパフェセット</p>	<p>ほしいものをたのんだり尋ねたりする活動を通して、外来語との発音の違いに慣れさせながら活動を楽しませる。 各班をまわり支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Next is your turn. You are customers. you have to get 5 fruits. And make your fruits parfait. • Write down what everyone of your teammates want. <p>各班をまわり支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • How does the shopkeeper work? How does the customer order? • Let's practice as a customer and a shopkeeper. <p>客と店員の会話を補助する。</p> <p>フルーツパフェの制作の補助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • There are no shopkeepers. • Any volunteers? • Let's say to them. "good job!" • Let's say together • "This is our fruits parfait. たのみ方を評価させる。 • How about their job? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価</p> <p>A 外来語との発音のちがいに気をつけて、すすんで自分のほしいものをたのもうとしているか。</p> <p>B 外来語との発音のちがいに気をつけて、自分のほしいものをたのんでいるか。</p> </div>
<p>7, Closing Remarks-学習のふりかえりをする。</p>	<p>子どもたちの活動する姿のよいところを評価する。</p>
<p>8, Greeting 終わりの挨拶をする。</p>	

(5) 本時授業の結果と考察

導入の段階で、本時の流れを示し、学習に入ったことで、子どもたちの活動はスムーズになった。また、本時のめあてをより具体的に示したポイントを提示することで、子どもたちの学習意欲が高まった。

展開の前半では、"What do you want ?"、"~, please."等の表現に慣れるために、前時までに学習した歌の歌詞を変えて歌う活動やデモンストレーションの中で店員をたずねて歌う活動を仕組んだ。繰り返し楽しく歌うことで、子どもたちは表現に言い慣れてきた。

メインの活動のオリジナルフルーツパフェを作る場面では、進んで自分の欲しいものを頼んだり、相手の欲しいものを尋ねたりしようとする意欲を持たせるために、会話を通して実際にフルーツパフェを作ることができるように、フルーツパフェキットを用意した。子どもたちは、自分も作りたいという気持ちを持ち、進んで自分の欲しいものを頼むことができた。

フルーツパフェキットが1セットしかなかったため、すべての子どもたちが一斉に欲しいものを尋ねたり頼んだりする活動を行うことができなかった。各班に1セット程度使えるようにフルーツパフェキットを作るか、それに代わる教具を用意するとより効果的になると考える。

フルーツを頼む活動について、子どもたちが、お互いに、めあてとポイントに対する達成度をみとることができるよう、それぞれの発表に対して子どもに評価をさせる活動を仕組んだ。子どもたちは、「君ははっきりした声で言っていた。」「さんは相手の顔を見て頼むことができていた。」など、友達の言い方の良かったところを評価することができた。子どもたちは、フルーツパフェの出来映えをわくわくして見ていたようだが、それだけにとらわれず、頼む活動の際の様子をポイントに照らして見ていたようである。これは、これまでの学習活動の中で友だちの発表に対して評価する活動に取り組んできた成果でもあると考える。

しかし、活動に対する自分の態度や気持ちをポイントに照らして振り返ることができていなかった。コミュニケーションの楽しさについての振り返りができるように、教師の発問や振り返りカードの記入の仕方など工夫が必要である。

【実践2】6年生 Lesson 5 道案内をしよう Turn right. (総時数 4時間 3 / 4)

(1) 単元の目標

班で協力して道案内をし、進んで気持ちよく目的地への行き方を尋ねたり、道案内をしようとしたりする。身近な外来語に興味をもつ。

建物などの名前の英語、Go straight. Turn right/left. Stop.を用いて道案内をする。

地域の名所や名店など地域のよさを再発見するとともに、異文化について知ろうとする。

(2) 本時主眼

友だちと英語で道案内をする楽しさを味わう。

方向や動きを示す英語表現に慣れ親しむ。

(3) 展開

	児童の活動	HRTの支援	評価規準(方法)
挨拶	【Warming up】 ・挨拶をする。 Hello. How are you?	・笑顔で明るく1人ひとりの児童と挨拶をすることで英語を	

挨拶	<p>/ I'm fine. / happy / hungry.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の日になちと曜日を言う。 ・ 『Happy Birthday to You』を歌う。 	話しやすい雰囲気をつくる。	
導入	<p>1. めあての確認をする。</p> <p>— めあて —</p> <p>相手が目的地にたどり着けるように道案内をしよう。</p>		
展開	<p>【Let's Chant】</p> <p>2. チャンツ Where is the station? を行う。</p> <p>【Activity】</p> <p>3. ペアになり相手の道案内を聞いて、相手と同じ町を英語ノートの地図上に作る。</p> <p>【Activity】</p> <p>4. グループで道案内をする。</p> <p>5. 本時の振り返りを行う。 振り返りカードを記入する。 感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェスチャーを付け、建物絵カードを示しながら児童と一緒にチャンツを言う。 ・ 児童がチャンツに慣れてきたら目的地を替え、飽きずにチャンツができるようにする。ペアになり、英語ノート P32, 33 を開ける。 1人が巻末の絵カードを地図上の空いているところに置く。相手に置いた絵カードの建物までの道案内をし、自分が作った町の様子を知らせる。 もう1人は、それを聞いて自分の地図上に同じ町を作る。 できあがったら、相手に地図を見せ、同じ町かを確認する。 役割を交代する。 児童を4グループに分ける。 教室を4つに分け、各グループで机の上に建物絵カードを置き、机を建物に見立てる。 グループ内で順に案内し、終わる度に机の上に置いた建物絵カードを替え、再度案内をする。 ・ 建物絵カードには地域の建物もいくつか含めるようにする。 ・ 本時で気づいたことや新しく知ったことなどを記入させる。 ・ めあてに沿って活動できたことや友だちの知らなかった面に気づいたことなどを記入している児童を指名し、発表さ 	<p>建物などの名前の英語, Go straight. Turn right / left. Stop. を用いて道案内をする。 (自己評価)</p> <p>相手に伝わる声で道案内をし、相手を目的地までたどり着かせる。伝わるまで何度も言う。 (自己評価)</p>

		せる。	
挨拶	・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・みんなで元気に声を出して言 わせる。	

(4) 本時授業の結果と考察

まず導入の段階では、チャンツ"Where is the statio?"を行い、前時までにすでに親しんでいる方向や動きを示す英語"Go straight. Turn right / left. Stop."をリズムにのり、自信をもって言えるように練習をした。チャンツの練習が2時間目ということもあり、子どもたちは大きな声で自信をもって言えるようになった。また、何度もくり返してチャンツを行うことで、子どもたちは確実に英語の表現に慣れることがわかった。

展開の段階では2つの活動を行った。一つ目は、ペアになり相手の道案内を聞いて、相手と同じ町を英語ノートの地図上に作る活動を行わせた。チャンツで"Go straight. Turn right / left. Stop."などの言い方に慣れていたために、どのペアも楽しそうにはっきりとした声でお互いに道案内をすることができた。二つ目の活動は、自分の英語でグループのみんなを誘導する活動を行わせた。子ども達の「自分の言ったことが伝わった。」「間違えずにたどり着けた。」などの声が聞かれ、楽しそうな笑いが教室中に広がった。また、自分たちが住んでいる地域の建物の絵カードをいくつか取り入れたことで、「(あの建物の)英語での言い方が分かった。」「初めて聞いた。」など自分の地域にある建物の英語での言い方を知ることができ、新たな発見となった。

本時の評価については、

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文化についての気付き ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現への慣れ親しみ |
|---|

の3項目について本時のめあてを定め、到達していると思われる児童の名前をメモした。名前を書くことが出来なかった児童については、ふり返りカードを読んで評価を行った。

ふり返りカードには、

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 楽しく活動ができたか イ 聞き手の目を見て話せたか ウ 相手に届く声で話せたか エ 言葉やジェスチャーで自分の思いを伝えようとしたか オ 相手の伝えたいことをわかってほしいか |
|---|

の5項目を ・ ・ ・ で自己評価し、本時の感想を書けるようにした。

本時の振り返りカードを読むと、「はじめははずかしかったけど、何度も英語で道案内をしていると慣れてきて楽しくなった。」「自分の言ったことを分かってくれてうれしかった。」「英語で言われたとおりに動けることがうれしかった。」などの感想が書かれており、子どもたちが英語でコミュニケーションをとることを楽しんでいたことがわかった。

8 成果と今後の課題

(1) 成果

単元及び一単位時間の学習展開の中に、自分が伝えたいことを伝える活動や自分や相手のことを互いに伝え合うという目的のある活動を位置づけ、めあてを具体的に提示したことは、自分の話が伝わったり相手の話が理解できたりした喜びや、もっと聞きたい伝えたいという知的好奇心を持たせることにつながった。その結果、外

国語を使ってコミュニケーションをすることの楽しさを感じたことが、子どもたちの振り返りから明らかになった。

単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定し、それに沿った児童用の振り返りカードを作成し活用したことは、子どもたちが活動にどのような思いで取り組んだのかがわかり、有効であった。また、1単元1枚にまとめた振り返りカードを作成したことで、子どもたちが単元の流れをつかみ、活動の見通しを持つとともに、毎時間の自分の伸びを自覚することができたようであった。

(2) 課題

子どもの興味・関心や学級の特性をふまえ、全ての子どもが、自分の考えや思いを基に積極的にコミュニケーションをすることができるようにする教材の開発と単元構成の在り方。

評価の観点に沿った、評価規準の設定。

教師が、関心・意欲・態度を見取るために行動観察の際に用いるチェックリストの作成や、児童が、外国語を使った、コミュニケーションの楽しさを実感できる振り返りカードの作成とその分析の在り方。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省 日本文教出版
- ・「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」 文部科学省 日本文教出版
- ・「小学校英語活動実践の手引き」 文部科学省 開隆堂出版
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集
～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～小学校版」 文部科学省
- ・「小学校外国語活動 研修ハンドブック」 文部科学省 旺文社
- ・「英語ノート1.2 指導資料」 文部科学省 開隆堂出版
- ・「新学習指導要領の展開 外国語活動編」兼重 昇・直山木綿子編著 明治図書出版
- ・福岡教育センター研究紀要 179「小学校外国語活動 指導マニュアル」
福岡教育センター
- ・「評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校編 外国語活動」(平成23年3月)
国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「初等教育資料 平成23年3月号、7月号」 東洋館出版